

今回は群馬菱の実会の創設“秘話”を企画いたしました。

「菱の実会創設・秘話」 中澤光男さん

〔三菱電機ライフサービス(株)群馬支店長〕

昭和61年(1986年)私が労組群馬支部の執行委員長、その当時労組内では中高年対策が運動のひとつの目玉でありました。その狙いは人生60年時代からやがては80年代への突入を予期したものであり、現役の中高年者には退職後の趣味や健康、財産等のいわゆる退職後に備える教育研修活動が盛んに行われました。

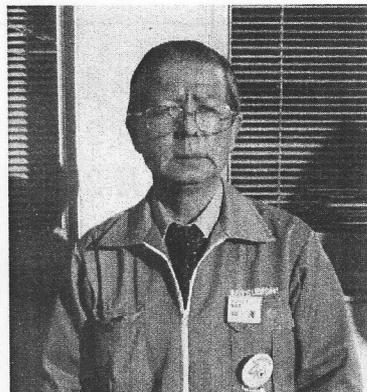
一方馬電でも業歴入社の方が年々、定年を迎える状況となり、其の数も数十名を数える状況となりました。

当時、私は本田武さんが労組本部で中高年対策部長をしていた関係もあり、中高年専門委員会の委員として活動していましたが、同じ委員仲間で中津川支部の当時の組合役員であった荻野書記長が「中津川は、退職の会をつくり退職後も旅行したりボランティアしたり、結構楽しくやっている」との言葉に多いに刺激を受けました。

そして「人生80年代を迎え、第二の人生を仲間と楽しく過ごせる組織が必要」との思いを抱き、当時の退職者の内、近隣に住む大竹照雄さん(尾島町世良田)や日比野秀雄さん(新田町木崎)石田武夫さん(04年3月退会)等呼びかけ、私の思いを皆さんに伝えました。

同席の皆さんも「面白そうだ」ということで、「会長は年配者の大竹照雄さん、副会長は日比野秀雄さん、会計は石田武夫さん」等勝手に推薦し、初代会長に大竹照雄さんを正式に決定しました。

その後数回の幹事会を開催し、退職者名簿の確認や簡単な規約作りを行いました。事務局の取りまとめは、当時町会議員であった下山順一郎さんに御願いし、この人選も彼の面倒身のよさから的中したものでありました。そして迎えた結成集会は、参加者40名程度と極少数な人数でありましたが、無事組織結成が確認され、ここにめでたく「馬電菱の実会」が産



声をあげたのであります。あれから早18年、この間会員も300名を数える大組織となり、パソコンやカラオケなど今時の趣味の世界をはじめ、総会・親睦旅行と一大行事に変貌しました。

初代会長の大竹照雄さんをはじめ、結成にご尽力された先輩諸氏に改めて御礼を申し上げます。(おわり)



初代会長の大竹照雄さん(H16年12月22日撮影)